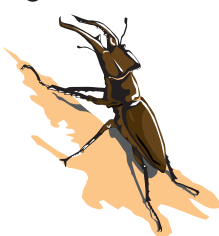




亀田 郁夫 大野 眞 木下 敬二

私たちが、かつては少年。毎日が「体験学習」の夏休みだった。



木下 昔は親が子供をかまっていられないほど生活におわれていた。だから私の小学生の頃は中学の先輩が海へつれて行ってくれた。先輩のいうとおり行動する。堤防まで行くぞ、と先輩がい、クローラで泳いでいく後を、小学生たちは枕木などにつかまり、一時間かけてゆつくりついていく。堤防の高ところから、先輩が飛び込め！といえ、みんなザブンとね。当時小学生はフンドシで泳いでいました。(笑)

大野 北総、印旛郡は高い山はありません。せいぜい20メートルから30メートルの山というより丘ですか。利根川では、よく子供などが溺れたんです。私が育ったのは90軒ほどの集落ですが、昭和40年頃、親たちの寄付などでいち早くプールをつくりました。安食(あじき)というところは、ヘラブナ釣り



南房総の昔の農村風景(遠くにワラボッチ)



小学校時代の亀田

県南思考 2

「千葉県政をもっと身近にする新聞です！」

編集者・木下 敬二／亀田 郁夫／秋山 光章
残暑お見舞い申しあげます。

「県南思考」は、県南地域の県会議員、木下敬二、亀田郁夫、秋山光章が編集する新聞です。「県政の動き、県議の活動をもっと知りたい」という皆様の声にお応えするものです。

「県南思考②」は、元旦創刊号に続き発行いたしました。今回は県北印旛郡栄町の大野眞

大野 「県議会では何をやっているのだから？」というのが県民の皆様の率直な思いではないでしょうか？ 堂本知事も情報の徹底公開を標榜していますが、どうでしょう？ 私には六月の一般質問でも、県政情報を積極的な方法で公開するよう質しました。「県民に身近な県政」は、地方分権型社会づくりの第一歩です。

木下 75万人ですか！南房総が全部一つになっても、かなわない。(笑) 私は南房総は、老人天国にしたかどうか、と思うのです。老人ということばは悪いですが、団塊の世代の人たちは、自分を老人とは思っていない。第一の人生でやりた

亀田 県南は都会の人のやすらぎの場だと思います。本来の森は人々にいこいといのりの気持ちを与えてくれます。「森は海の恋人、川はそのラブレター」という言葉もあるようですが、森の再

生は、里山を活かし、森の養分が川に入り、海の魚を育てます。私はまず原点は森にあると考え、実際に地域の人たちと森林再生に取り組み始めました。県南の森の多くは人工林で、いま経済価値を生まない森には人がいらす、間伐などの手入れが遅れています。放っておけば治山治水の機能が失われ、山地災害が多発する可能性もあるわけ

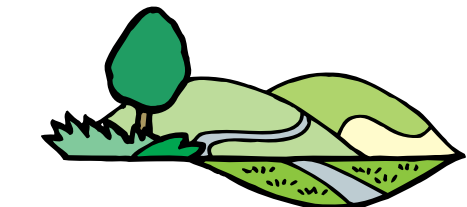
先日、久しぶりに海に出ましたが、昔のジリジリする暑さではなく、肌を鋭く刺すような日射しに、これがオゾン層の破壊などと思うと恐ろしく感じました。皆様も野外では、紫外線対策を充分とるようご注意ください。

大野県議の「財政措置もなく、権限だけの道州制移行であれば、地方分権改革に逆行する」というご意見、もつともです。(亀田)

守るべきもの、失ったもの、答えは明白です。子供たち、孫たちが生きる未来を私たちが壊してはいけないと強く感じました。

亀田 郁夫 (かめだ いくお)
昭和27年2月16日生 ●血液型/AB ●家族/3人
●趣味/マリンスポーツ 空手
●好きな言葉/有言実行
事務所/〒296-0041 鴨川市東町665
TEL:04-7099-0190 FAX:04-7099-0191
E-mail:ikuo-k@leaf.ocn.ne.jp

私の、「県北・県南、未来の処方箋」。



くりのなかで、「道州制」の論議が加速化しています。道州制は、たとえば全国を10程度の道・州に再編し、国と州の立法権を分ける連邦制のようなものです。目的は、国の役割を安全保障や外交などにしぼり、国の諸事務を基礎自治体である道州に移すことにあります。

私の言う老人天国は、昔のシルバータウン構想とは大分違ったものです。まだまだ元気で第二の人生を自分で創っていくという人たちの南房総です。最近、創年という言葉を目にしました。高島です。

ここに大きな病院もあるし、安全安心のまちです。古い映画だけを上映する常設館など、高齢者のためのいたれりつくせりのインフラをととのえる。対象は元気な高齢者や元気回復を目指す高齢者です。その人たちをお世話する若い人たちの仕事もいっぱいあるまち。それが観光産業に成長していく。高齢者にやさしい街は、結局、地域の人間にやさしい街といえるのではないでしょう

編集後記
印旛郡選出大野県議の参加ありがとうございました。内閣改造があり、自民党連会長幹雄氏が、国家公安委員長として8年ぶりに千葉県から大臣に選出されました。祈る！ご活躍!!

中国ギョウザ事件、原油高、地球温暖化問題、オリンピック等々話題は豊富にあり。県南思考を見ていただき、県政への熱い要望、ご意見をお寄せください。(木下)

先日、久しぶりに海に出ましたが、昔のジリジリする暑さではなく、肌を鋭く刺すような日射しに、これがオゾン層の破壊などと思うと恐ろしく感じました。皆様も野外では、紫外線対策を充分とるようご注意ください。

木下 敬二 (きした けいじ)
昭和23年5月17日生 ●血液型/AB ●家族/7人
●趣味/歴史小説(中国) 読書 ゴルフ
●好きな言葉/温故知新
事務所/〒295-0005 南房総市千倉町牧田164-1
TEL:0470-44-4111 FAX:0470-44-4112
E-mail:kishita@awa.or.jp

県南思考
私たちは、行動する県議員として、常に住民の皆様とコミュニケーションをとり、県南独自の考えや要望などを県にあげ、県政の目的との統合をはかり、理想の地域づくりをめざして努力します。小紙「県南思考」をお読みになり、お感じになったことや、ご意見、ご要望などを各議員におよせください。お待ち申しあげます。



大野 眞 (おおの まこと)
昭和33年4月9日生 ●血液型/O ●家族/3人
●趣味/映画鑑賞 下手なゴルフ
●好きな言葉/初心忘るべからず・初心不可忘
事務所/〒297-1516 印旛郡栄町安食2753-82
TEL:0476-95-1391 FAX:0476-95-6064
E-mail:makoto409@catv296.ne.jp



昭和40年頃の千倉の漁港風景



右、木下

海の小わさは自然と体得します。岩場ではげしい波に出会った場合は、波にさからわずに浮遊しながら難をのがれる。魚も浜の竹などをひろって、簡単な糸と針でけっこう釣れたもんです。フグなんか釣ると、「バチン」と足でつぶしたりして、今ほとてもかわいそうでできないけど。漁師さんのトマヤ(小屋)に石ぶっつけて追いかけられたり、田んぼの稲むら(ワラボッチ)の上でトランポリしているうちに崩れてしまい、また追いかけてきたり。本当に申し訳なくも、忙しい毎日でした(笑)。

小学校入学時(木下)



亀田 郁夫

大野 2010年、成田空港の平行滑走路が2500メートルに延伸され、羽田も4本目の滑走路が完成します。「冬柴プラン」では、年間発着回数が増え、2万回、羽田は国際便6万回増加の予定になっています。「国際線は成田、国内線は羽田」の基本はくずれ

年間800万人の訪日外国人を 県南へひっぱれないか?

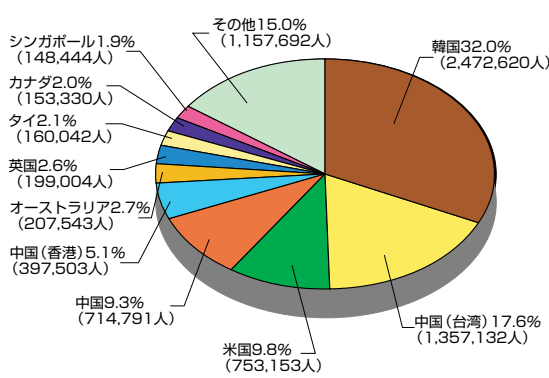


千葉県は「観光立県」を宣言しているけど、全国3分の2ほどが観光立県と言っているの、ライバルは多い。南房総には何ががあるか、ということ。

木下 成田空港へ来ている外国人の半数以上が、韓国や中国などアジアからの旅行者で、毎年増えています。ただ成田にきているのではなく、乗り継いでディズニーランドへ行く。ほかに北海道にスキー目的で行ったり、福岡で二泊のゴルフツアーを楽しむといったケースが多いです。

大野 私たちが栄町には「房総のむら」というのがあって、江戸時代の武家屋敷や、旅館、上総の農家などが再現されています。昔の生活の体験学校もあり、外国人が甲冑を付けて写真を撮ったりして人気があります。またパイロットなどクルーの数も相当なものです。クルーを対象にした無料バスを出して、観光、宿泊を取り込もうとしています。

平成19年度外国人新規入国者数上位10ヶ国・地域 (法務省)



開港30周年を迎えた成田空港

亀田 国は成田と羽田を一緒にして、首都圏空港として位置づけたい。でも県は今後も成田は国際線の基幹空港という位置を守りたい。東京への利便性を高めるために成田新高速鉄道や北千葉道路・圏央道などのインフラ整備を急いでいます。成田周辺は、成田国際空

木下 南房総は団塊世代の人気調査でも、「住みやすいところ」の上位にあります。都会の環境



千葉県立・房総の村



道の駅ちくら・潮風王国



鴨川市総合交流ターミナル・みんなの里(直売所)

木下 今度のオリンピックで房州のあわびが大量に買い付けられた。あわびの水揚げが50トンとすると、その3分の2は中国が直接買い付けた勘定になる。干しあわびは、薬膳料理などの基本の素材ですからね。

大野 千産千消はもつと論議する必要がありますね。千葉県内の食糧生産量では、県内需要をまかないきれません。生産者が高値で買ってくるところに出荷するのは当然だし、地元の消費者も、千葉の米が高ければ、「千産千消」しないですよ。日本人は言葉をつくらなく、そこで安心してしまっ

亀田 日本の食糧自給率は40パーセントを切り、先進国の中では最下位。しかも世界の穀物高騰、地球温暖化、中国など新興国の輸出制限など、それこそ国産国消で全量を確保する必要があります。いまは農家では作るより買った方が安いといっています。

千産千消の理想と現実。



千産千消は食糧にかぎらず、木材もあります。南房総市の丸山中学校がその例です。平成17年に竣工になりましたが、丸山産の杉を内装や屋外建設にふんだんに使っています。学校建設は市民参加型で、8億円の基金と国の補助を受けましたが、それでも、地元の杉を使うということとは、大変なこと。一口に地元の間伐材の利用というけど、現実はいまはきびしい。

大野 千産千消はもつと論議する必要がありますね。千葉県内の食糧生産量では、県内需要をまかないきれません。生産者が高値で買ってくるところに出荷するのは当然だし、地元の消費者も、千葉の米が高ければ、「千産千消」しないですよ。日本人は言葉をつくらなく、そこで安心してしまっ



大野 眞

大野 私が中学の頃、40年近く前になりましたが、近所の川は透きとおっていました。今、利根川で泳ごうとは思いません。印旛は湖沼の多いところ。周辺の人口が急増し、宅地開発がすすむに従って印旛沼などが汚染されていく。国の湖沼

子供、自然、何が変わったのか?



指定を受け、水質保全計画の中で汚染をくい止めて、浄化に努力しています。



木下 敬二

亀田 環境の変化でいえば、ホテルがめずらしいものになってしまった。昔は何匹も取ってきた。夜、蚊帳の中ではない。砂浜が小さくなった。昔は海に入ると20メートルから30メートル、足の裏をこがしながら走りまわった。

大野 昔は木をゆすつただけで、カブト、クワガタがポトポト落ちて来て。子供も、樹液を見て、どの木にカブトがいるかよく知っていました。

亀田 子供たちに、現在の自然をそのまま体験させようとしても無理があるようです。魚釣りにしても、今はチャンとした仕掛けがない。鴨川では地元の人とともに、森林再生に取り組もうとしています。第一歩は、我々が小さい頃、ごく自然に出来たことをできるようにしよう。杉などを間伐して、治山治水を図る。カブトの来る木を

木下 千倉もそうです。が、九十九里なんかも、ほとんど砂浜が無くなっていて。海に突堤を出すと、一方側の浜への砂の供給がなくなり、砂の少なくなった海岸を波がか

じつていく。そこでテトラポットを置くわけですが。でも、全体的に大きく考えると、これも温暖化の影響もあるかも知れません。第一、取れる魚が違って来た。北海道でブリが取れる。ありえないですよ。昔、12月になると千倉の海には、ハリコのサンマが入って来ました。15センチ前後の細いのを、火に炙って頭から食べる。今はサンマはどこかへ行き、千倉のサンマ出漁船は、ゼロです。

昨年、県議会で農山漁村の体験交流について質問しました。これ



2002年、教育関係で、中国山東省の威海一中を公式訪問 (木下)



印旛沼の夕景



森林再生のマスタープランに取り組む (亀田)

育てる。花や実のなる木を植える。里山や森林に人が入れば、人と動物の境界もはつきりして、イノシシなどの被害も少なくなる可能性がある。今はインターネットがある、携帯がある、地方でも大型ショッピングセンターがある、子供たちにとつて、情報という意味では、都会も地方も同じです。ただ都会には、ゆたかな自然がない。千葉県の自然を守っていくことが、観光や健康など、地域の振興にもつながると考えます。

は農林水産省、文部科学省、総務省の3省が考えている「子供農山漁村交流プロジェクト」です。自然体験は、児童の学習意欲や思いやりの心が育まれることが期待されます。宿泊体験は、1週間ほど、高学年の児童が民宿や農家に泊まり、季節に応じた農作業などを体験します。南房総市では、体験受け入れモデル地域として、岩井、千倉が指定を受けています。

南房総は自然がいっぱいあるけど、大野さんのお話のように、地元の子供も自然の中で遊んではいない。とにかく今の子供は忙しすぎる。塾やサッカー、野球、テレビゲームなど身近な遊びも多様化している。家の中でメタボのオヤジとルームランナーで競ったり